

（和名の右の「県：○」は
千葉県レッドデータブック
のランクを示しています）

千葉県のカエル

意外にも調査団では報告件数が少ないカエル類。カエルを見かけやすいのは春から夏にかけてですが、秋は多くの種が成体になっていることから、観察に適した時期でもあります。今回は千葉県内で観察できるカエルのうち、在来の全10種と外来の2種を選びました。ご報告をお待ちしています。



a0618

ニホンアマガエル

朝鮮半島や中国にも広く生息しているアマガエル科の広域分布種。主な生息地は水田周辺域で、県内で最も一般的な種。色素が欠乏した個体が観察されることもある。



a0389

シュレーゲルアオガエル 県：D

アオガエル科の日本固有種。水田の周辺域を好む。3～6月に水田の畔などに白色の卵塊を産む。名前はオランダのライデン国立博物館館長だったH・シュレーゲルに由来。



a0618

モリアオガエル 県：C

アオガエル科の日本固有種。樹上で、繁殖期には水辺の枝に泡状の卵塊を産卵する。県内では房総丘陵周辺などに生息する。鴨川市では天然記念物に指定されている。



a0618

カジカガエル 県：B

アオガエル科の日本固有種。本州、四国、九州の溪流や周辺の森に生息する。体つきは扁平で、オスが水辺の石の上などで鳴く声が雄鹿に似ているため「河鹿」と呼ばれる。



a0618

ニホンアカガエル 県：A

アカガエル科の中で、最も一般的な種。日本固有種。繁殖期が1～3月と早く、水田や水路などで卵塊を観察できる。県内の全域で確認記録がある。



a0618

ヤマアカガエル 県：C

アカガエル科の日本固有種。ニホンアカガエルに似ているが、ニホンアカガエルよりも山地の森林などに生息し、県内では房総丘陵の広域で確認されている。



a0618

タゴガエル 県：B

アカガエル科に属する日本固有種。県内では房総丘陵の河川上流部に限定的に生息しており、観察は難しい。繁殖期（2～3月）に溪流の崖地から声が聞こえる。



a0618

トウキョウダルマガエル 県：B

アカガエル科に属する日本固有種で、仙台平野～関東平野、長野県、新潟県に分布する。かつてはトノサマガエルと混同されていたが、関東地方に分布しているのは本種。



a0618

ツチガエル 県：A

アカガエル科に属し、本州～九州及び朝鮮半島や中国にも分布し、水田や湿地、池、川に生息している。酸っぱい臭いがし、背中に大小のイボ状突起があり、腹側は白くない。



a0034

アズマヒキガエル 県：C

ヒキガエル科の日本固有種。中国地方、近畿地方以東に生息する。県内では里山などに多く生息するが、習志野市などの都市部でも確認されている。あまり水を好まない。



a0618

ウシガエル 特定外来生物

アカガエル科の外来種。米国から食用として持ち込まれたものが逃げ出して、全国に広がった。河川や池沼に広く生息する。幼生（オタマジャクシ）も体サイズが大きい。



a1116

ヌマガエル

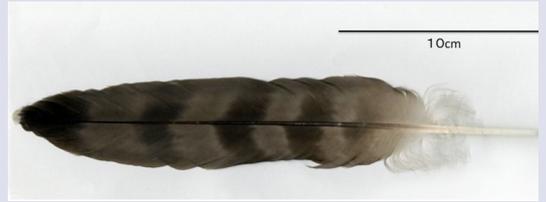
ヌマガエル科に属し西日本の水田でよく見られる南方種。千葉県に移入し分布を拡げている。ツチガエルに似るが臭いがなく、イボ状突起が小さく、腹が白いので区別できる。

ヨシ原の猛禽類

秋の現地研修会は香取市で、香取神宮と利根川岸の生きものを観察します。幸運な方はオオタカ、ミサゴなどの猛禽類を見られるかもしれませんので、こちらの写真で予習して、ご参加ください。

オオタカの羽根を拾ったら…

オオタカは「国内希少野生動物植物種」に指定されています。拾った羽根を自分で持つだけならば、問題ありませんが、誰かに譲渡または販売すると「種の保存法」に抵触しますので気をつけましょう。オオタカに限らず羽根の写真を報告で送る場合は、大きさが識別の決め手になる場合があります。定規など目安になるものと一緒に、撮影してください。



a0285

ミサゴ (翼開長 147-169cm) 河川等の上空を旋回する姿がよく見られます。長い翼と褐色の襟巻が特徴です。



a0512

チュウヒ (113-137cm) 広いヨシ原の上をかすめるように飛びまわります。翼をV字にして滑空します。



a0512

オオタカ (106-131cm) 深く早い羽ばたきと滑空を繰り返し上空を舞います。短めで太い翼と細かい縞があります。



a0285

ノスリ (122-137cm) ゆったりと舞っています。茶色い腹巻が目印です。茶色の腹巻と、手首の斑紋が目立ちます。



a0512

コムミスク (94-104cm) 夕方の明るい時間から、草地をかすめて飛びます。円柱に翼が生えたような体型に見えます。



a0701

ハヤブサ (84-120cm) 早い羽ばたきと滑空で、スピードのある狩りをします。とがった翼と、もみあげが特徴です。

平成28年度 第2回現地研修会は 平成28年9月24日(土)
場所は香取神宮と水郷さわら自然観察湿地を予定しています。

詳しくは同封の案内をご覧ください。

外来生物法で指定されている特定外来生物に24種類が追加されました(8月15日)

そのうち、県内生息が確認されているのはハナガメ、オオタナゴ、コウライギギ、ナガエモウセンゴケ、生息の可能性のあるのは、ハナガメとニホンイシガメの交雑種、ハナガメとミナミイシガメの交雑種、ハナガメとクサガメの交雑種です。

10月1日から飼養、栽培、保管、運搬、放出、輸入等の規制が開始されます。
規制開始以前から飼養・栽培している方は、飼養等許可申請が必要になります。
詳しくは環境省のウェブサイトをご確認ください。野外には絶対に放さないでください。

〈これからの季節に観察できる生きもの〉

- 調査対象種：ミヤコドリ、オオバン、モズ、リンドウ、イチヨウ(黄葉)、イロハモミジ(紅葉)、ヒガンバナ(開花)
- 調査対象種以外(種の同定が難しいため、できるだけ写真の添付をお願いします)
- * 渡りのシギ・チドリ類、 * 各種昆虫(とくにバッタ、コオロギ、カマキリ)、 * 両生類、爬虫類など
- * 希少生物(生息・生育数が減少している生物)や、外来生物の報告も受け付けています。

メールアドレスなど、団員登録情報に変更がありましたら、事務局までお知らせください